2027年3月期
第2四半期
決算説明資料

株式会社CAPITA（東証スタンダード：7462）



Contents

1 | エグゼクティブサマリ

2 | 2027年3月期 第2四半期 決算概要

3 | 財政状態・キャッシュ・フロー

4 | 通期業績予想・株主還元

Appendix | 当期の主な取り組み

1

エグゼクティブサマリ

01

エグゼクティブサマリ

◆連結初年度の中間期は、不動産販売の拡大により売上高が前中間期比+83.8%と大幅増収

◆営業段階では黒字を確保。経常損失は借入手数料など一過性の要因によるもの

◆通期業績予想は据え置き

2027/3期 中間期実績

初の連結中間決算　不動産販売が牽引し大幅増収

売上高 **1,942百万円**（+83.8%※）　営業利益 **10百万円**（△22.9%※）

経常損失 **50百万円**　親会社株主に帰属する中間純損失 **33百万円**

・不動産事業（売上高1,118百万円・セグメント利益146百万円）が全社を牽引
・販管費増は連結移行の体制整備・株主優待拡充など成長投資によるもの
・経常損失は借入手数料・費用項目変更など一過性要因によるもの

2027/3期 通期予想

売上高 **2,300百万円**（+9.1%）　営業利益 **300百万円**　経常利益 **230百万円**

親会社株主に帰属する当期純利益 **200百万円**（+43.8%）

・通期業績予想は修正なし　・中間期進捗率：売上高84.4%／営業利益3.5%

当期のトピックス

・バイオ・サイト・キャピタル株式会社を完全子会社化（2026年5月29日）
・普通株式1株→2株の株式分割を実施（2026年7月1日）
・中間配当1株当たり5円、年間配当予想10円（分割前換算20円相当の**実質増配**）

※前中間期は個別（非連結）業績。当社グループは2026年3月期末より連結財務諸表を作成しているため、参考比較として記載

2 |

2027年3月期 第2四半期 決算概要

01

連結業績概要

◆前期取得の販売用不動産4物件の販売により、売上高は1,942百万円（前中間期比+83.8%）

◆販管費は、連結決算移行に伴う体制整備費用や株主優待の拡充など、成長基盤づくりへの投資により増加（+89百万円）

◆経常損失は、不動産取得時の借入手数料や会計上の費用項目の変更といった一過性の要因が重なったもの

◆前中間期は固定資産売却益等の特別利益139百万円を計上

（単位：百万円）

科目	2026/3期中間期（個別）	2027/3期中間期（連結）	増減額	増減率	2027/3期通期予想	進捗率
売上高	1,056	1,942	+885	+83.8%	2,300	84.4%
売上原価	746	1,545	+798	+107.0%	—	—
売上総利益	310	396	+86	+27.9%	—	—
売上総利益率	29.3%	20.4%	△8.9pt	—	—	—
販売費及び一般管理費	296	386	+89	+30.2%	—	—
営業利益	13	10	△3	△22.9%	300	3.5%
経常利益	6	△50	△57	—	230	—
特別損益	135	—	△135	—	—	—
税引前中間純利益	141	△50	△192	—	—	—
親会社株主に帰属する中間純利益	112	△33	△146	—	200	—

※前中間期の「親会社株主に帰属する中間純利益」欄は個別の中間純利益。百万円未満切捨て

02

売上高の動向

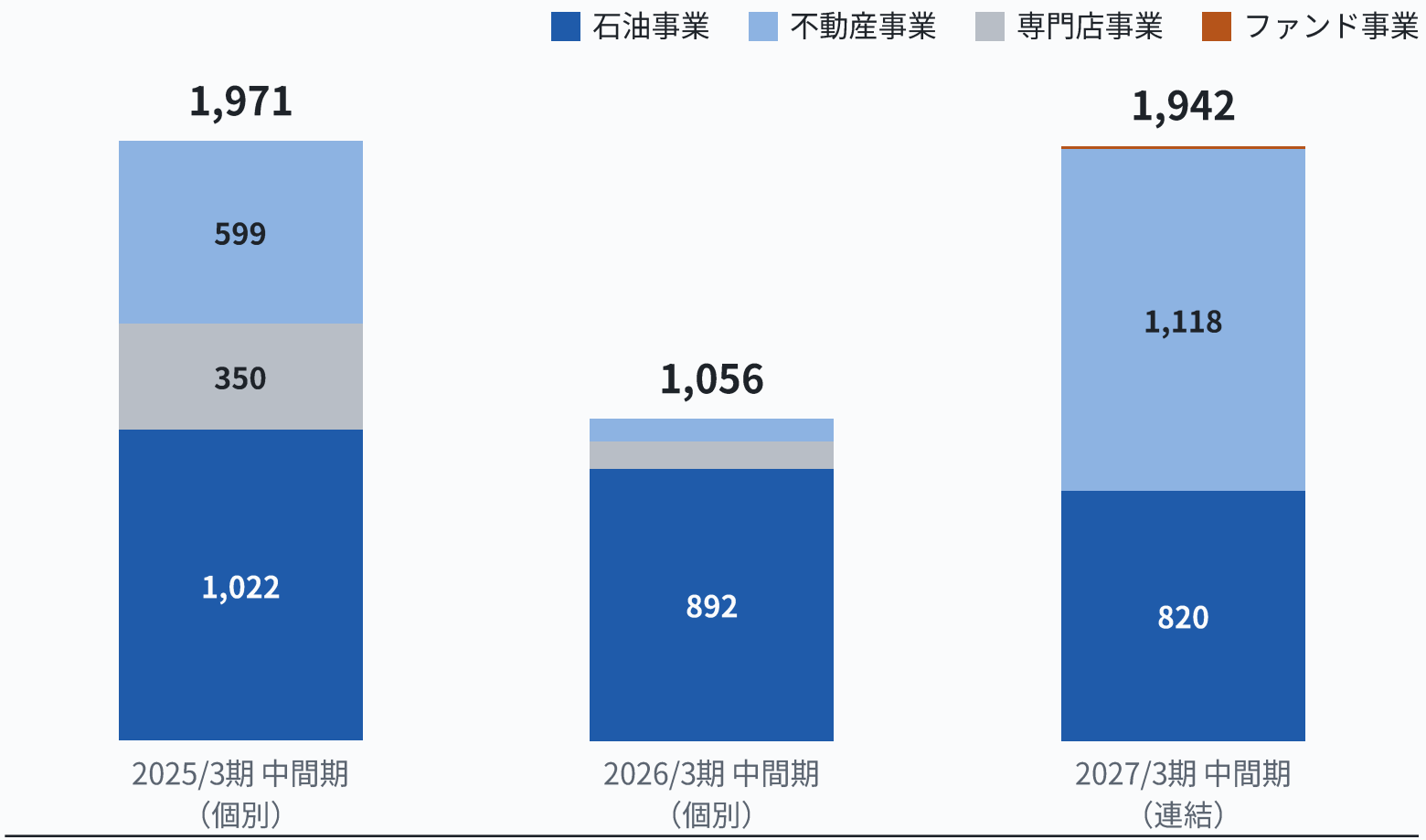
◆ **不動産事業**　1,118百万円（前中間期75百万円）。前期取得の4物件を販売し大幅増収

◆ **石油事業**　820百万円（同△8.1%）。顧客の買い控えや長期降雨による来店客数減が影響

◆ **ファンド事業**　3百万円。有価証券売却損益を純額で表示

◆ 専門店事業は2025年7月1日に事業譲渡済み

（単位：百万円）



セグメント別外部顧客への売上高。前中間期以前は個別（非連結）

03

営業利益の動向

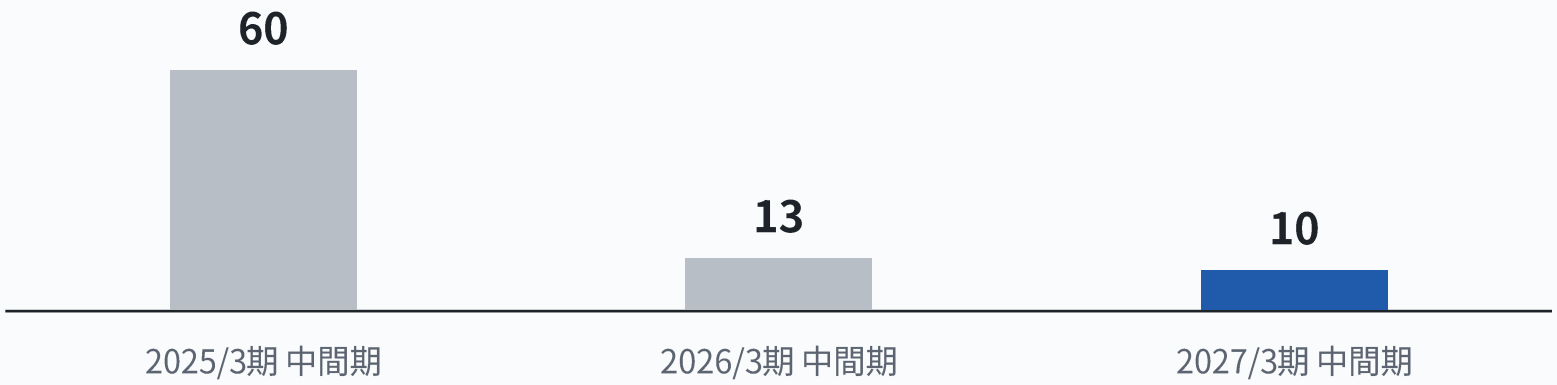
◆ **不動産事業**　セグメント利益146百万円（前中間期比+142.2%）と大きく伸長

◆ **石油事業**　44百万円（同△7.5%）。石油商事は物販・カード収益が好調で増益

◆ **全社費用**　153百万円（同+73百万円）。連結決算移行に伴う監査法人費用などの体制整備費用に加え、株主還元策の一環である株主優待の拡充による費用が増加

◆ いずれも持続的な成長と株主価値の向上に向けた、前向きな基盤づくりへの投資

（単位：百万円）



セグメント利益	2026/3期 中間期	2027/3期 中間期	増減額
石油事業	48	44	△3
不動産事業	60	146	+85
専門店事業	△15	—	—
ファンド事業	—	△27	—
全社費用（調整額）	△80	△153	△73
営業利益	13	10	△3

04

セグメント別の状況

◆石油・不動産・ファンドの3セグメント体制で初の中間決算

◆セグメント利益合計164百万円のうち、不動産事業が146百万円を占める

◆ファンド事業は投資先支援・EXIT対応を継続

石油事業

売上高

820 百万円

前中間期比 △8.1%

セグメント利益

44 百万円

前中間期比 △7.5%

・中東情勢で原油高、新規仕入先確保で安定供給

・SSは長期降雨で洗車・コーティングが苦戦

・石油商事は減収増益

不動産事業

売上高

1,118 百万円

前中間期 75百万円

セグメント利益

146 百万円

前中間期比 +142.2%

・前期取得4物件を販売、高収益4物件を取得

・巣鴨ダイヤビルは満室稼働

・トランクルームも安定

ファンド事業

売上高

3 百万円

当期より新設

セグメント利益

△27 百万円

—

・2025年11月のBSC子会社化により新設

・万博ファンドで投資組入れ

・スタートファンドでEXIT対応

BSC：バイオ・サイト・キャピタル株式会社

05

営業利益から中間純損失へ

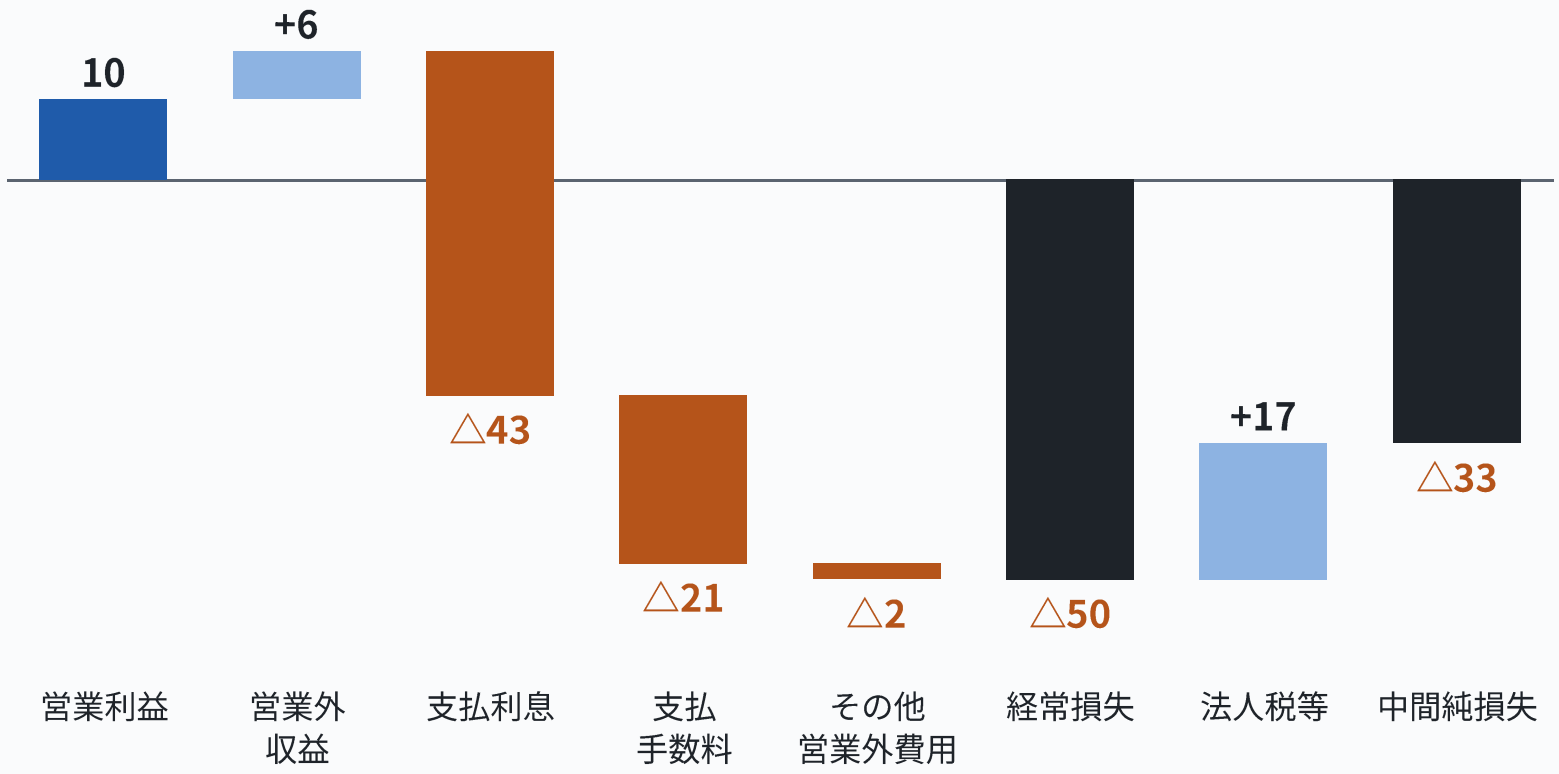
◆事業拡大に向けた販売用不動産の取得資金として、借入れを積極的に活用（短期+587百万円、長期+1,203百万円）

◆経常損失50百万円は、不動産取得時の借入手数料（支払手数料21百万円）と会計上の費用項目の変更という一過性の要因が重なったもの。本業の営業段階では黒字を確保

◆法人税等△17百万円を加味し、中間純損失33百万円（親会社株主帰属）

◆取得した販売用不動産は今後の収益源として、下期以降の業績への寄与を見込んでおります

（単位：百万円）



税金費用は当中間期より見積実効税率による計算に変更（影響は軽微）

3

財政状態・キャッシュ・フロー

01

財政状態

◆販売用不動産の取得により商品が1,489百万円増加し、総資産は6,992百万円

◆取得資金を借入金で調達し、有利子負債は4,729百万円（前期末比+1,888百万円）

◆純資産は配当金支払45百万円・中間純損失33百万円に加え、BSC完全子会社化による非支配株主持分の減少（130百万円）で1,786百万円

◆自己資本比率は25.6%

（単位：百万円）

科目	2026/3期末	2027/3期 中間期末	増減額
現金及び預金	1,471	1,593	+121
商品	2,270	3,760	+1,489
流動資産	4,032	5,574	+1,541
固定資産	1,397	1,418	+20
総資産	5,430	6,992	+1,562
短期借入金	654	1,241	+587
長期借入金（1年内返済予定含む）	2,187	3,488	+1,300
負債合計	3,443	5,206	+1,763
純資産	1,987	1,786	△200
自己資本比率	34.2%	25.6%	△8.7pt
有利子負債	2,841	4,729	+1,888

02

キャッシュ・フロー

◆販売用不動産の取得（棚卸資産の増加）により、営業CFは△1,565百万円

◆財務CFは借入れにより+1,691百万円

◆子会社株式の追加取得（BSC完全子会社化）による支出123百万円

◆現金及び現金同等物の期末残高は1,363百万円

（単位：百万円）

営業活動によるCF

△1,565

棚卸資産の増加	△1,489
法人税等の支払額	△133
税金等調整前中間純損失	△50

投資活動によるCF

△54

定期預金の預入	△51
有形固定資産の取得	△4

財務活動によるCF

+1,691

長期借入れによる収入	+1,580
短期借入金の純増	+587
長期借入金の返済	△279
子会社株式の追加取得	△123

現金及び現金同等物 期末残高

1,363

期首残高	1,291
当中間期増減	+71

4

通期業績予想・株主還元

01

2027年3月期 通期業績予想

◆2026年5月14日公表の通期業績予想を据え置き

◆売上高の進捗率は84.4%

◆第2四半期累計期間の予想と実績の差異は、本日公表の「2027年3月期第２四半期業績予想と実績値の差異に関するお知らせ」をご参照ください

（単位：百万円）

売上高

2,300 百万円

前期比 +9.1% ／ 中間期実績 1,942

進捗率 **84.4%**

営業利益

300 百万円

前期比 — ／ 中間期実績 10

進捗率 **3.5%**

経常利益

230 百万円

前期比 — ／ 中間期実績 △50

進捗率 —（中間期は損失）

親会社株主に帰属する当期純利益

200 百万円

前期比 +43.8% ／ 中間期実績 △33

進捗率 —（中間期は損失）

1株当たり当期純利益（予想） **24.32円**

02

株主還元（実質増配）

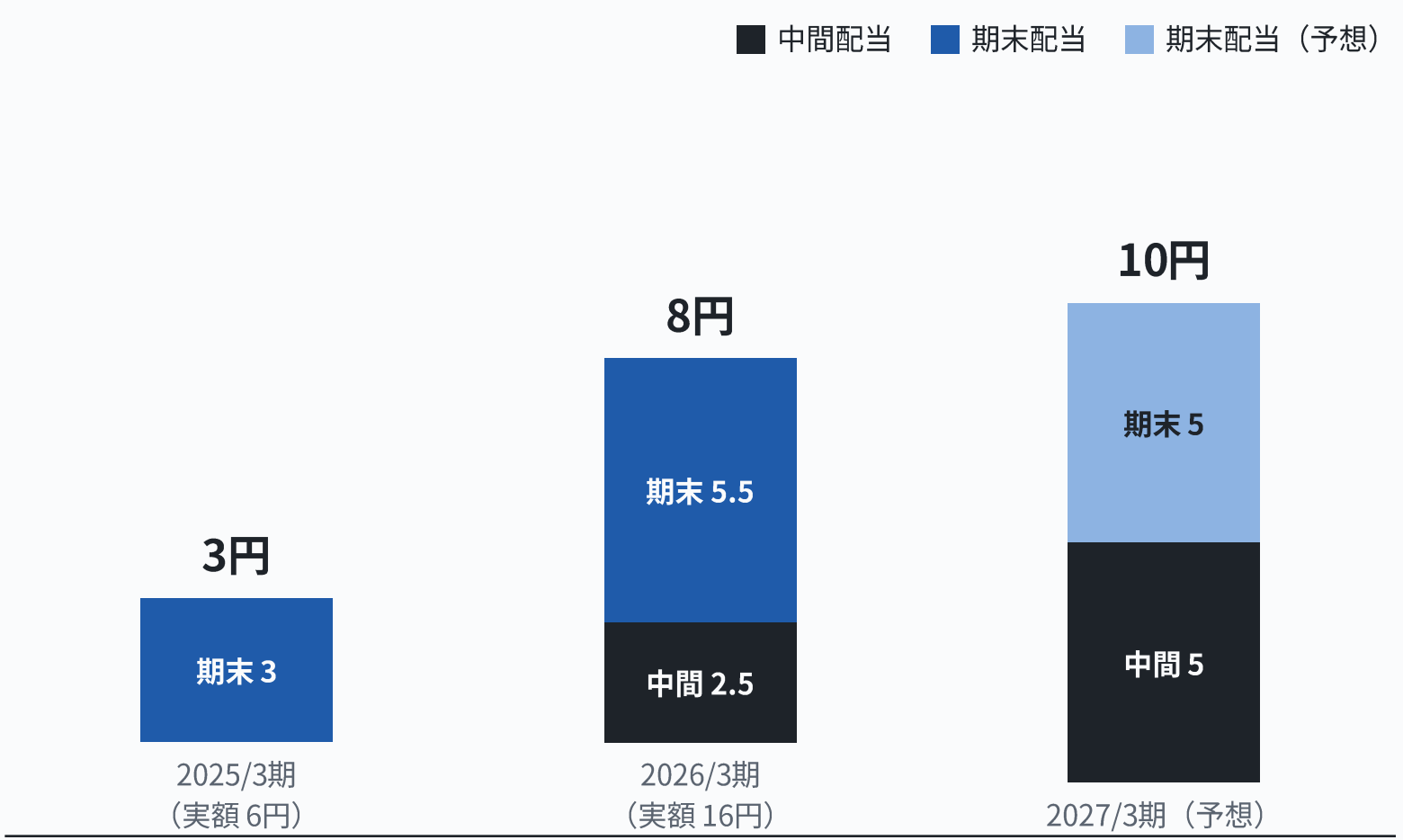
◆2026年7月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を実施

◆中間配当は1株当たり5円（2026年11月24日支払開始予定）

◆年間配当予想は10円（中間5円・期末5円）。分割前換算では20円相当となり、前期実績16円から**実質4円の増配**

◆株主優待制度（CAPITAプレミアム優待倶楽部）も継続

（1株当たり配当金・株式分割考慮後換算）



2025/3期・2026/3期は株式分割（1:2）を考慮した換算値。括弧内は分割前の実額

A

当期の主な取り組み

◆ 不動産事業では販売用不動産の譲渡・取得による資産の入れ替えを推進

◆ バイオ・サイト・キャピタルの完全子会社化により、グループ一体の機動的な経営を実現

◆ 執行役員制度の導入や100億宣言の採択など、成長に向けた経営体制を整備

◆ 株主優待の拡充やメディアでの情報発信により、株主還元とIRを強化

日付	内容	カテゴリー
2026/4/16	販売用不動産の譲渡（神奈川県横浜市）	不動産
2026/4/22	バイオ・サイト・キャピタル株式会社完全子会社化の決議	投資事業
2026/4/28	販売用不動産の譲渡（東京都板橋区）	不動産
2026/5/11	販売用不動産の譲渡（神奈川県横浜市）	不動産
2026/5/14	株主優待の拡充	
2026/5/19	FISCO TVにて中期経営ビジョン説明会動画配信	
2026/6/12	固定資産の取得（大阪府藤井寺市・大阪府守口市）	不動産
2026/6/29	執行役員制度の導入	
2026/6/30	100億宣言採択	
2026/8/5	販売用不動産の取得	不動産
2026/8/31	借入金の返済	
2026/9/3	固定資産の譲渡（茨城県神栖市）及び特別利益の計上	不動産

免責事項

本資料は、当社の事業、財務、業績に関する情報を提供することを目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。投資判断は、必ずご自身の責任において行ってください。

本資料に記載されている将来の見通し（事業計画、戦略、業績予想など）は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づき、当社が合理的であると判断した一定の前提および仮定のもとに作成されたものです。しかし、これらの前提および仮定には不確実性や潜在的なリスクが含まれており、実際の事業活動の結果は、様々な要因により、これらの見通しと大きく異なる可能性があります。当社は、新たな情報や将来の事象により、本資料の見通しを更新する義務を負うものではありません。

本資料の作成にあたっては、細心の注意を払っておりますが、その正確性および完全性を保証するものではありません。本資料のご利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いません。

お問い合わせ先：株式会社CAPITA　IR室　電話：03-6277-5015　／　メール：info@capita-inc.jp